

## 理事長あいさつ

理事会だより

大久保の地域は昔より様々なものを受け入れ変化を繰り返してきた地域です。

古くは百人町鉄砲隊、鉄砲隊が戦さのない時は植木職人となり、ツツジの名所として知られました。

明治時代は軍人の町、小泉八雲、島崎藤村、国木田独歩ら文豪のまち、山の手の住宅地と言われ、そして戦後は歌舞伎町に隣接する地域として発展してきました。

またかなり古くから留学生の為の宿泊施設があったようで、様々な国の人達を受け入れる地域でもありました。

バブル崩壊後は、大久保は暗い汚い怖いと言われた時代もありました。

そして大久保は、韓流ブームで大ブレーク。

全国から観光客が集まり、3年前は歩道が人であふれ、駅やコンビニのトイレは長い行列ができていました。

休憩をする喫茶店も少なく、年配の方も多くいらしたのに大変だったと思います。

今は韓国の商店主の皆さんの努力で、トイレや休憩できるスペースもたくさんできていますので、安心してお買い物やお食事を楽しんでもらえる街になってまいりました。

韓国料理やコスメ、グッズの他にK-POPのスタジオもでき、韓国でメジャーな

グループのジャパンデビューイベントが開催されたり、  
新大久保発のK-POPグループも誕生しています。  
また2014年から「新大久保映画祭」も行われています。

新大久保は街路灯のLED化や放送設備も新しくなり、明るい街へと  
変わってきました。  
最近はややベトナム料理の店もでき、ますますにぎやかになりそうです。

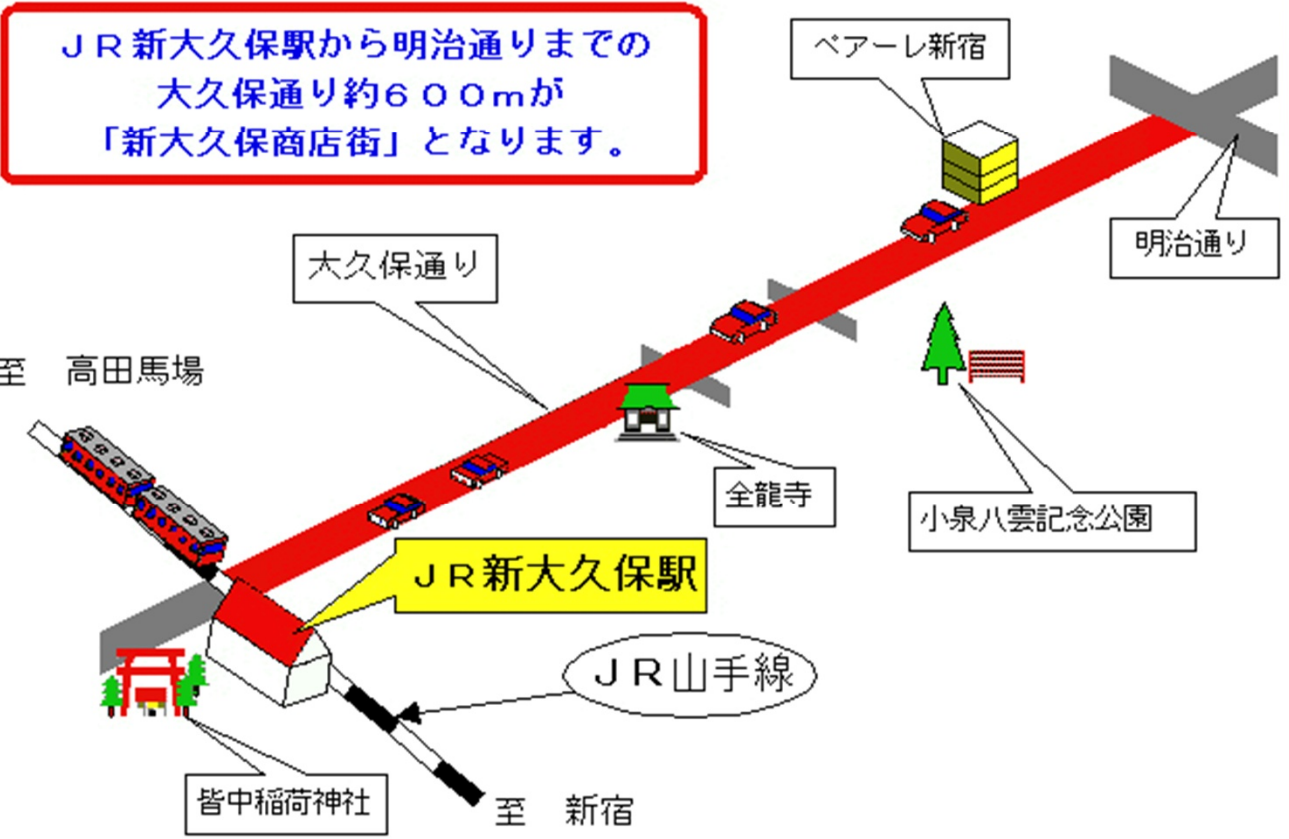
新大久保駅も2020年のオリンピックに向けいよいよ  
バリアフリー化とともに、駅舎が改築されます。  
当然電車は毎日走っていますので、終電から始発までの夜中数時間ずつの  
工事になるそうですが、乗降客の皆さまには不自由なことはないと思います。

無事故で1日も早く完成することを祈りつつ、完成した時に多くの人たちが  
訪れたいような魅力のある商店街、様々な国の人たちが仲良く暮らせる街、  
里帰りした大久保ツツジの花咲く明るい街、天使のすむ街を皆さんと  
一緒に作っていきたいと思います。

新大久保商店街振興組合  
理事長 伊藤 節子



—新大久保商店街—



交通のご案内

- JR山手線 新大久保駅より 徒歩0分
- 東京メトロ副都心線 東新宿駅より 徒歩 0分
- JR総武線 大久保駅より徒歩 3分

## 『天使のすむまち』の由来について

「天使のすむまち」は新大久保商店街振興組合の愛称です。

新大久保は2002年の日韓共催サッカーワールドカップや、2004年に起こったいまや気軽に韓国を体験できる町として全国からたくさんの人々が訪れる町になりました。韓流ブームを通して、韓国のお店も増え続け、たくさん韓国の人が生活しています。

しかし、この町には韓国人だけではなく、世界の国々からも多くの人々がやってきています

地元の公立学校、区立大久保小学校では日本の子供たちに混じって、いろいろな外国からきた子供たちが机を並べて一緒に勉強しています。

大久保に生まれ育った私たちは、考え方や生活習慣の違う人々が増えてくることに不安やストレスを感じたり、店頭での接客時にとまどうことが少なからずあります。

しかし、住み慣れた母国を離れて大久保で生活している人々の中には、言葉もわからず、私たち以上に不安やストレスを感じている外国の人がたくさんいると思われます。さまざまな国の人が集まるこの町では、お国柄の違いから誤解が生まれたり、ともすれば疑心暗鬼になって、お互いを避けあうようになったりする空気がないわけではありません。

そこで、私たちは「どこの国の人もお客様として同じように接客しましょう。」  
「だれでも楽しくお買物ができる商店街にしましょう。」そう考えました。  
次に何か世界中で共通してわかりあえるようなものはないだろうか？と考えました。

その結果、考えついたのが天使でした。天使なら世界中で共通の理解が得られる存在だと考えたのです。私たちの町、新大久保にはさまざまな国から人々が集っています。

それぞれ問題もいろいろかかえています、みんなが天使のように優しい気持ちを忘れずに人と人として接していこう。

だれの心にも住んでいる天使を一人一人が大切にしよう。

清潔で歩きやすく楽しく安心して買物ができる大久保通りにしよう。

そんな願いを込めて、私たちは新大久保商店街振興組合を「天使のすむまち」と呼ぶことにしました。  
JR新大久保駅ガード下に描かれている高岡洋介・横島基尚両氏による大壁画もそういう気持ちを込めて制作されたものです。

平成18年1月

森田 忠幸  
(当時の理事長)